

Central Weekly Market Report

2025年12月19日

セントラル短資株式会社 総合企画部

今週（12月15日から12月19日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続きビッドサイドの資金調達ニーズが旺盛に見られた。16日(火)には付利金利を上回る水準での試し取りが実施されたことから、加重平均レートが上昇する展開となったものの、それ以外の日では、0.477%前後の出合いを中心に、概ね横ばい圏で落ち着いた推移となった。

ターム物は、ショートタームで出合いが散見されたものの、金融政策決定会合を控え、様子見姿勢の先もあったため、ロングターム物では閑散な状態となった。

日銀当座預金残高は、年金定時払いにより468兆円台後半まで増加してスタートした。その後は財政資金の揚げ払いにより多少の増減は見られたものの、概ね467兆円前後での推移となった。

また、18日(木)・19日(金)に開催された金融政策決定会合では、政策金利を0.75%に引き上げることが決定された。

●債券レポ市場

今週のGC O/N物は、15日(月)～18日(木)は、0.495～0.505%、19日(金)は、0.70～0.75%程度で推移する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y470～479回、5Y170～180回、10Y355～380回、20Y180～194回、30Y65～88回、40Y10～18回などで引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンと1Yゾーンの金利が上昇した。

17日(水)に実施された1Y物入札は事前予想に比べ弱めの結果となったが、その後のセカンダリーでは底堅く推移した。

18日(木)に実施された3M物入札は無難な結果となり、その後のセカンダリーでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、電気・ガス、不動産、建設業など複数の業態が大型発行を実施した。

市場残高は、週を通して概ね25兆円台半ばで推移した。

発行レートについては、12月18、19日の金融政策決定会合での利上げがほぼ織り込まれる形となり、決定会合を跨ぐ取引については、0.75%を超えるレート水準での出合いが中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/15 (月)	50,168.11	1.954	155.95	0.477	0.502	4,687,300
12/16 (火)	49,383.29	1.950	155.08	0.482	0.502	4,680,300
12/17 (水)	49,512.28	1.975	154.68	0.478	0.501	4,666,000
12/18 (木)	49,001.50	1.965	155.55	0.477	0.499	4,683,200
12/19 (金)	49,507.21	2.020	155.73	0.477	0.687	4,686,200

来週（12月22日から12月26日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

		国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/22 (月)	10月のサービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)			7-9月期の英GDP確報値
12/23 (火)			流動性供給 12/24発行 2,500億円	7-9月期の米GDP速報値 10月の米耐久財受注 10・11月の米鉱工業生産
12/24 (水)	金融政策決定会議事要旨(10月29,30日分 8:50) 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			12月の米CB消費者信頼感指数
12/25 (木)	植田日銀総裁 日本経済団体連合会審議委員会における講演 11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		2Y 1/5発行 28,000億円	New York, Euro, London祝日 (Christmas Day)
12/26 (金)	12月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 11月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 11月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 11月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50)			Euro祝日(Christmas HoliDay) London祝日(Boxing Day)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/22 (月) 日銀予想	▲ 2,200	52,400	50,200	国債補完	1,700		1,700	51,900	国債の大量償還・利払い TDB3M発行▲43,000償還43,000 TDB1Y発行▲32,000償還32,000 5Y償還15,600、10Y償還11,100 20Y償還13,700 エネルギー対策借入▲7,613期日7,400
12/23 (火) 弊社予想	▲ 2,000	▲ 9,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	
12/24 (水) 弊社予想	▲ 2,000	▲ 2,500	▲ 4,500	共通担保	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 12,500	流動性供給▲6,500
12/25 (木) 弊社予想	▲ 2,800	2,000	▲ 800				0	▲ 800	
12/26 (金) 弊社予想	▲ 3,000	6,000	3,000				0	3,000	
週間合計	▲ 12,000	48,900	36,900	—	▲ 6,300	0	▲ 6,300	30,600	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、利上げ後も引き続き堅調な資金調達ニーズが見込まれるため、0.725～0.728%程度での出会いが中心になると予想される。債券レポ GC T/N物は、利上げに伴い、レートは0.65～0.75%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、来週の入札予定ではなく、次回は1月6日(火)の3M物となっている。CP市場では、月末発行週となるため、利上げ後のレート水準を含め動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、24日(水)に金融政策決定会議事要旨(10月29,30日分)、25日(木)に植田日銀総裁 日本経済団体連合会審議委員会における講演、26日(金)に12月の都区部消費者物価指数、11月の労働力調査(完全失業率)、11月の一般職業紹介状況(有効求人倍率)、海外では、22日(月)に7-9月期の英GDP確報値、23日(火)に7-9月期の米GDP速報値などの公表が予定されている。（※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何かの取引を誘導することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入